

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	75.79	83.11	2024年1月～6月までの時事問題を題材にした地理に関する基礎的な知識を問う出題。受験生全体を見ても、合格者全体を見ても正答率は高く、しっかりと解答できていたと思う。その中で正答率が低かったのは、問6のアメリカ合衆国に関する出題、問8の「特定農林水産等の名称の保護に関する法律」に規定されている登録標章マーク(GI)に関する出題であった。GIマークのデザイン中には世界遺産の富士山が表現されている。いずれにしろアメリカ合衆国と富士山に関する知識を問う出題なので、2問ともそれ程難易度が高いとは言えないと思う。だから、冷静に考えて解答すれば正解できたと予想される。しかしながら、いずれも正誤を組み合わせで解答する出題であったので、受験生が解答のスピードを重視してしっかりと考える時間を取らなかったかもしれない。その他の出題に関しては、地理の基礎的知識が定着していれば正解できる出題であり、受験生はしっかりと対応していたと思う。	
	問2	81.58	85.71		
	問3	68.95	79.22		
	問4	65.79	66.23		
	問5	73.16	81.82		
	問6	55.26	61.04		
	問7	82.63	84.42		
	問8	47.37	51.95		
	問9	74.21	81.82		
	問10	87.37	87.01		
【2】	問1	83.16	85.71	歴史に関する基礎的な知識や、出来事をきちんと理解できているかを問う問題であった。全体的に、受験者・合格者ともに正答率が高く、よく解答できていると思われる。正答率が低かったのは、問4の井伊直弼の業績に関する組み合わせ問題、問9の江戸時代の出来事の並べ替え問題である。問4は、井伊直弼がアメリカと結んだ条約名や、彼がおこなった安政の大獄の内容について正確に理解できていないと、正解するのは難しいため、日々一つ一つの出来事や流れを正しく学習するように心がける必要がある。問9では、江戸幕府の各将軍がどのような政策をとり、日本がどのような流れで鎖国に至ったのかを理解できているか、問うている。並べ替え問題のため、難しく感じる受験生も多かったかもしれないが、ポルトガル船の来航が禁止された要因や背景をきちんと掴めていれば、他の選択肢との前後関係も見えてくるため、難問ではなかったと思われる。歴史は単なる暗記教科ではない。一人一人の歴史上の人物の行動には、多くの場合背景があり、一つ一つの出来事にも何らかの要因がある。そのことを意識し、歴史上の人物たちの世間の評価を鵜呑みにするのではなく、様々な角度からその人物の業績を見つめてほしい。	
	問2	68.95	67.53		
	問3	84.74	92.21		
	問4	51.05	53.25		
	問5	78.42	90.91		
	問6	58.42	71.43		
	問7	78.95	77.92		
	問8	61.05	66.23		
	問9	36.84	38.96		
	問10	83.16	90.91		
【3】	問1	54.74	61.04	「お金」をテーマとした、地理・歴史・公民の総合問題であった。例年と比べ正答率が非常に高く、時間をかけてしっかりと解くことができたと思われる。受験者と合格者の正答率に差が出た問題は問6、これはグラフから読み取れる内容として正しいものを選ぶ問題であった。一つ一つの選択肢が長文であり、グラフや文章を時間をかけて読み込むことが必要とされた。また、問2も差が開いた。これは本文中に当てはまる文章の順番を答える問題であった。本文を読み込み、意味を理解しないと解けない問題であった。以上、正答率に差がついた問題の共通点は、長文やグラフを読み取る必要があることであった。社会科は、地理では地図や統計、歴史では史料、公民では新聞など、多くの資料を読み取り、意味を理解し、課題を発見する能力が求められる。社会に関する本や記事を読んだり、統計資料を見たりして、こういった能力をつけられるよう努めてほしい。	
	問2	75.79	89.61		
	問3	記述	62.89		71.43
	問4	86.32	88.31		
	問5	79.47	92.21		
	問6	60.53	77.92		
	問7	42.11	54.55		
	問8	政策	53.68		63.64
課題		41.58	49.35		

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	93.9	95.5	<p>「日本の食」を題材として、地理分野の内容である、自然環境・産業・地図上での位置・交通・貿易などを総合的に出題した。</p> <p>問4は、国内での貨物輸送は主にトラックが担っていること、グラフの単位（トンキロ）の意味から、船舶や鉄道が運ぶことができる貨物量や重さなどをイメージして解答をしたい。問5・7の用語は、食料問題に関する標準的な知識であり、日ごろから特定の分野に偏らず幅広く学習する姿勢が求められた。問10は、郷土料理を知らなくても、問題文の「その土地で盛んに漁獲される魚介類などを使用しているものが多くあります」というヒントから、各県の水産業の知識とつなげれば解答が十分可能であった。</p> <p>地理は「位置の学問」ですので、学習をするときは必ず地図帳を用いて、学んだ事象とその位置を関連付けていく習慣をつけていくことが重要である。</p>	
	問2	52.9	56.1		
	問3	81.4	83.4		
	問4	35.1	39.9		
	問5	27.5	35.9		
	問6	94.6	96.4		
	問7	46.8	57.4		
	問8	79.4	82.5		
	問9	93.1	93.3		
	問10	69.6	73.1		
【2】	問1	(1)	94.9	96.0	<p>歴史のある名所について述べた文から各時代の出来事や文化等について総合的に出題をした。</p> <p>問2に関して、枯山水は理解していると思うが龍安寺まで結び付けていないため正答率が一番低かった。問4も世界遺産の問題であったが解答がまんべんなく割れていた。資料や図表、地図などを用いた問題では、視覚的に情報を整理する力が必要である。ただ、問7～問9では主要な歴史的できごとや人物、またその背景を理解しているかの問いであったが、正答率も7割を超えていたので評価したい。</p> <p>歴史を学ぶにあたって年号や事件を覚えることは基本である。これらの知識は問題を解くにおいて必要不可欠なので、ただ覚えるのではなく、なぜその出来事が重要なのか、どのように社会や経済、文化に影響を与えたのかを理解することが重要である。</p>
		(2)	93.1	96.0	
	問2	38.0	42.6		
	問3	77.0	83.4		
	問4	55.9	61.9		
	問5	61.8	67.3		
	問6	71.3	72.6		
	問7	96.8	97.3		
	問8	74.3	81.6		
	問9	71.6	79.8		
【3】	問1	88.5	86.1	<p>「健康的な食生活」をテーマとした会話文を読み、その中で提示される統計や資料を参考にして解答する総合問題を出題した。選択式の問題については、文章量や統計資料が複雑であったにもかかわらず、比較的高めの正答率となったことは評価できる。試験全体の時間配分を意識し、【3】に時間を多く費やすことができた受験生は安定した得点を得ることができた。雑多な情報から必要なデータを見出し、分析する能力は今後重要となるため、日頃からの練習が求められる。</p> <p>選択問題の中で唯一問4の正誤判定問題の正答率が低かったが、問題自体は難解ではない。この形式の問題を苦手とする受験生が多いことは認識している。複数の選択肢から一つの正答を選ぶのではなく、二つの文章の正誤を判定するには倍以上の労力がかかる。時間配分を意識して解くことが重要である。</p> <p>問5・6の記述問題については、問いの意味を十分に理解できておらず、方向性の異なる回答や表面的な回答が目立った。特に問6では「米を主食としているアジア圏で米を売り出す方法を述べよ」とあったにもかかわらず、欧米圏での販売手段を論じている回答が複数あった。採点者は記載された内容のみで判定するため、問題の意図を正確に理解することが重要である。</p> <p>問7の「食育」を答える問題であったが、語句自体は知っていたとしても空欄の前後の文章に惑わされた受験生が多かったのではないだろうか。このような問題に対処するためには、単なる暗記で終わらせず、その意味や背景まで考察することが重要である。普段から関連する資料や文献を読み、情報を収集するように心掛けてほしい。</p>	
	問2	63.5	68.2		
	問3	71.3	81.6		
	問4	27.0	30.9		
	問5	(5)	19.9		23.5
		(6)	41.1		49.8
	問6	記述	11.4		12.7
問7		7.6	10.3		

社会 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	問1	38.0	54.0	<p>方言をテーマに、地図やグラフの読み取りも含めた日本全国の地理に関する問題を出題した。受験者と合格者での正答率の差が大きかった問題は、問1・問5である。問1は地形図を見て地図記号を判別する設問である。中学校と高等学校の地図記号の違いなどにも注目しながら地図記号の勉強をしてほしい。問5は知多半島と渥美半島の位置を正しく覚えているかを問うもので、シンプルな問題ゆえに漢字ミスなどが目立った。一方、問2・問3・問9は正答率が高かった。問3・問9は基礎的知識が定着していれば正解できる問題であり、受験生はよく解けていたと思う。また問2は想像力や背景知識が必要な設問であるが正答率が高い。日々の努力の成果である。</p>
	問2	81.9	82.0	
	問3	82.9	92.0	
	問4	36.1	44.0	
	問5	65.7	80.0	
	問6	50.0	62.0	
	問7	55.6	62.0	
	問8	14.4	18.0	
	問9	94.9	98.0	
	問10	68.5	90.0	
【2】	問1	(1)	45.4	<p>日本文学史から出題をした。受験者と合格者での正答率の差が10ポイント以上あった問いは、問10・問3・問1(1)であった。問10は、日本人のノーベル文学賞受賞者に関する出題であった。川端康成はよく知られているが、大江健三郎がもう一人の受賞者である。ノーベル賞受賞者については一覧表などで確認しておきましょう。問3は貧窮問答歌の作者である山上憶良を漢字で答える出題であった。漢字を間違えていたり、ひらがなで答えている答案が多く見られた。歴史上の人名については、漢字指定もあるので、日頃の学習では漢字で学習するようにしてほしい。問1(1)は最初の勅撰和歌集である古今和歌集を答える問であった。新古今和歌集や、古今和歌集といった誤答がみられた。歴史の学習では、政治史が中心になりがちであるが、文化史も見落とさないような学習を心がけてほしい。また、作者と文学作品名を覚えるだけの単純かつ機械的な学習ではなく、文学作品の内容を時代背景を踏まえて理解するような学習を意識してほしい。</p> <p>その他、全体として正答率が低かったのは問7であった。寛政の改革を行った松平定信を、肖像画から選ぶ出題である。こちらも語句だけの学習でなく、資料集などを活用して図版を参照しながらの学習が必要であると考えることからの出題であった。</p>
		(2)	88.9	
	問2	81.0	92.0	
	問3	64.4	82.0	
	問4	96.3	100.0	
	問5	79.6	88.0	
	問6	81.0	80.0	
	問7	36.1	44.0	
	問8	41.2	40.0	
	問9	96.3	98.0	
問10	55.6	74.0		
【3】	問1	5.1	14.0	<p>スポーツの歴史をテーマに出題を行った。</p> <p>問1に関して述べると、資料1からは、相撲には女性をけがれとみなし、そしてそのけがれを塩によって清めることができるということがあることを読み取ることができる。これはいずれも日本の伝統宗教に由来する発想である。また資料2において、流鏝馬が神社にて行われていることに注目すると、これらのスポーツがいずれも元々は宗教的な式典として行われていたことがわかっただろう。</p> <p>問3では、「決まった時間と場所」、「明確な規則」、「若者」というキーワードから、「学校」という言葉を連想してほしかった。近代スポーツは、産業革命以降に登場した学校という空間の中で形成されていったのである。</p> <p>問5について述べると、まず(ア)の選択肢では、そもそも全ての競技が同じ回数だけ行われているとは限らないことに気がついてほしかった。野球のメダル獲得数がいずれも少ないのは、野球に人気がないためではなく、そもそも野球の試合がオリンピックで行われた回数が少ないためである。また(エ)の選択肢では、全ての国の出場回数が同じではないことに気がついてほしかった。確かに表中のメダル総獲得数を計算するとアメリカは中国のおよそ4倍になるが、そもそも中国がオリンピックに参加したのは1952年からであり、アメリカに比べて出場数が圧倒的に少ない。</p> <p>問6は極めて正答率が少なかったが、イメージを膨らませれば正答を選ぶことができたはずである。考えてみてほしい。今よりも人種差別が激しかった時代において、差別している人間が、差別されている人間と一緒にプールの水につかなくて泳ぎたいと思うだろうか。当然そんなことはありえない。また、現在イスラム教徒の女性用の水着が開発されていることからわかるように、伝統社会において、女性が肌を見せることは避けられる。水泳という娯楽が生まれた当初もそうで、女性の水着は今とは全く異なる、普通の洋服のような見た目をしていて、プールという場ならば誰もが同じような姿になる、という認識も誤りである。</p> <p>問8についても、普段の自分の生活をかえりみて、イメージをふくらませてみてほしかった。受験生のみさんの中にはスポーツ観戦を趣味としている方も多だろうが、その中でどれだけの方が女性スポーツを見ているだろうか。自分が女性スポーツを見ない理由は何だろうか。そのように考えてほしかった。すなわち、女性スポーツは男性スポーツに比べて迫力がなく、見ていて面白くないと思われているからだ。</p> <p>そのような状況を変えるための「見方・考え方」という聞き方はなかなか難しかったかもしれない。単に問題への対策を問うているのではなく、このような状況が発生する根本的な要因として、スポーツに対するどのような「見方・考え方」があるのか、ということを考えてほしかった。何故人気がなければ給料を下げられるのか。それはスポーツが一種のショービジネスになってしまっているからに他ならない。そのようなあり方はスポーツの本質とはかけ離れているのではないかと。そういったことに思いをはせてほしかった問題であった。</p>
	問2	40.3	48.0	
	問3	31.0	30.0	
	問4	53.7	72.0	
	問5	62.0	70.0	
	問6	25.5	18.0	
	問7	54.2	62.0	
	問8	要因	26.4	
改善策		5.7	8.7	